

平成20年3月11日（火）

○議長（中上良隆君）順番13、10番 平林君。

〔10番（平林崇行君）登壇〕

○10番（平林崇行君）会場の皆さま方からも多くのご声援をいただきましたので、今回の一般質問、私、一生懸命気合いを入れて頑張りたいと思います。

ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、一般質問を行います。

合併が行われて2年が経過します。来年度の予算書からも、数字の改革は進んでいるように思われますが、私が常に申し上げているもう一つの意識改革がまだまだ進展していないように思います。

さて、皆さんが意識改革に燃えるためにも、働く目的は何かということについて考えてみたいと思います。人間はだれしも豊かな繁栄を願っているわけですが、その繁栄はほかから与えられるものではなく、またじっとして得られるものではありません。それは努力によって得られるものだと思います。

例えばある会社が、人並み以上の仕事をせず、できた品物も悪い、勉強はしないというようなことがあれば、その会社には決して繁栄は生まれません。また、単にもうけるために経営するるのであれば、そこからは偉大なものは生まれません。本来、利益を得る以上の尊い使命を、すべての会社、すべての人が持っています。尊い使命、仕事を遂行するためにも、一生懸命頑張らなければなりません。日々頑張るためにも、いろいろな物資も必要になります。それを得心の上で社会から与えていただくというのが利益であると考えます。

だから、働く皆さまも給料をもらうことが最高の目的ではないと思います。働くことの

最高の目的は人間としての使命、さらに、具体的には職員としての使命をよりよく遂行することによって社会の繁栄に貢献し、また、自分自身の繁栄も約束されます。その約束される一つの糧として給料が支払われるのです。

このように考えてみると、会社、個人は社会に対する貢献が多ければ多いほど、報酬、利益として返ってきます。しかし、いくらもうけたいと思っても、その利益に相当しないような仕事をしていれば、社会から利益は削られていくこととなります。働きが社会から喜ばれなければ、社会から感謝の報酬はもらえないということになります。これはきわめて簡単なことであります。

今、政治は社会から喜ばれていないように思われます。政治不信との文字や言葉などよく目にします。私はとても残念で悲しくて仕方ありません。政治は政治として誠に大切です。政治のいかんによって国が発展し、国が滅亡するということは過去の歴史の教えるところでもあります。ですから、政治は非常に大切であることは言うまでもありません。その政治をとり行う行政の責任も大切であり、かわりを持つものすべての皆さまが志を高く持って、すべてのことに取り組む姿勢が必要です。

そこで、今回の質問ですが、1番目に行政改革についてです。

①私を含めいろいろな人たちが、仕事の中の職員のもとに、カウンターの中に入っていく話をしている姿をよく見ます。このことは仕事の効率を下げるばかりではなく、情報の漏えいなど多くの問題が発生すると思いますが、いかがですか。問題があるとすれば、どのような対応を考えていくのか。

②年度末を迎え、本年度も多くの職員の方が退職されますが、やめた方を再雇用して嘱託職員・臨時職員に採用する方はおられるのですか。また、本年度、再雇用していた嘱託職員・臨時職員、行政に関係あった方に対して再雇用するのですか。再雇用するのであれば、1年間の成果を調べ、市長がおっしゃる費用対効果を判断してのことなのか説明をお願いいたします。

次に、地域活性化についてお聞きします。当市は、木下市長を先頭に企業誘致に取り組み、成果を上げ、まち全体が活気づいてきました。今度は橋本市へ多くの方に足を運んでいただくよう、早期に地域活性化に取り組んでいただきたい。南海電鉄にも、難波一橋本間、30分の時間で到着するよう働きかけしていると聞きます。時間が短くなって、当市の方が大阪に行くのが便利になる考えではなく、橋本市へ多くの方に来ていただいての地域活性化をどのようにお考えですか。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君）10番 平林君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）平林議員の行政改革の質問にお答えいたします。

1点目の議員ご指摘の点についてはごもつともであり、以前から所属長に対して注意を喚起しているところです。特に、個人情報や入札情報を直接扱っている課等については、事業者の出入りに制限を設け、注意を払っているところです。

また、通常一般の市民についてはカウンター内まで入っての対応は考えられませんが、特定の委員等関係機関の方については、必要に応じて協議の場が必要となります。でき得る限り会議室を利用するのが望ましいのです

が、現在、市役所施設の現状では無理な点もありますので、短時間、少人数の協議等については、協議の内容も勘案し、事務室内で細心の注意を払いながら適切な対応をしてみたいと考えます。

2点目の嘱託・臨時職員に関する質問にお答えいたします。

平成20年度における市の退職職員の再雇用については、若干予定をしておりますが、特に該当する職員の現在の担当する職務について、引き続きその業務に当たらせることが適当であるという理由がある者に限っているところでございます。したがって、今後とも漫然と雇用を延長することなく、その理由がなくなり、効果が消滅した時点からは再雇用する考えは持っておりません。また、平成19年度に雇用していた元行政関係の職員についても、同様に現在適正に配置されているかどうかの観点から再雇用について検討しているところですので、ご理解をお願いいたします。

続いて、本市の活性化についてお答えいたします。

人口の減少や少子高齢化が深刻化する地方においては、広域からの人の来訪による交流の活性化、経済活動の活性化等のため、外部から地域を訪れる交流人口を増やすことが大きな課題となっています。本市においては、道路・鉄道を活用した大阪都市圏との人口交流の拡大が地域の活性化にとって重要であり、そのための基盤整備が急務となっています。

このような状況のもと、このたびのホテルの誘致は、交流人口の受け皿として、本市のみならず橋本・伊都地域の商業、観光、スポーツ面での活性化において、大きな役割を果たすものと期待するところです。

また、道路基盤においては、国道371号バイパスの一部供用開始、橋本高野橋の開通など徐々に整備が進んでいます。

一方、もう一つの重要な交通手段である南海高野線については、南海電気鉄道株式会社に対し、継続的に利便性の向上などの要望活動を行ってきたところであり、昨今は九度山町及び高野町と連携して、ダイヤの改善、最終電車の時間延長、特急電車の増便などについて積極的な要望活動を行っています。また、このたび商工会議所と連携して難波一橋本間の時間短縮の要望活動を行ったところがございます。

今後とも近隣自治体や橋本商工会議所などとさらに連携を深め、地域一体となって南海高野線の利便性の向上に向け取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（中上良隆君）経済部長。

〔経済部長（仲 完治君）登壇〕

○経済部長（仲 完治君）次に、経済部での地域活性化の取り組みについてお答えをいたします。

やどり青少年旅行村の建て替えと周辺のモミジ等の植栽については、少し年数のかかる計画でございますが、取り組みを進めているところであります。短期の活性化については、橋本市では厚生労働省の委託を受け、地域提案型の雇用創造促進事業に取り組んでいます。観光客を呼び込むために橋本市のよさをアピールする企画立案をし、地元の活性化につなげられる観光プロデューサーを育成しています。

地域活性化に向けた観光に関する中核的人材による取り組みの一例ですが、この3月23日に伊都橋本街道散策シリーズ第1弾、「旧大和街道散策と古代米・郷土料理」と銘打って、和歌山市はじめ紀ノ川流域の3市、五條市、堺市はじめ大阪府下の6市の自治体の観光、生涯学習関係方面に広く呼びかけを行いました。結果、各方面から予定の30名をオーバーし、50名の方の申し込みがあり、現在、第2

回目を4月に計画中であります。

こういった取り組みをはじめ、現在ある橋本市の観光資源の活用については、平成19年度に「はしもと観光ガイド」を作成いたしております。この「はしもと観光ガイド」は非常に好評で、橋本市に来ていただいた方に季節の花の名所等を紹介し、マップによるアピール等を行っています。また、不動山の徒歩観光コース、森林浴一本杉ハイキングコース、1日観光コースとして国城・玉川大自然体験コース等の案内もしています。今後、多くのコース案内ができるよう観光ガイド研修を実施してまいります。

一方、地域で積極的に観光資源を掘り起こしていただいている地元の方と協働して観光客を呼び込めるよう、地域との連携、バックアップできる方策も検討してまいりたいと思います。ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（中上良隆君）10番 平林君、再質問ありますか。

10番 平林君。

○10番（平林崇行君）ありがとうございます。それでは、通告書に従いまして、順に質問させていただきます。

それでは、まず行政改革についての1番目。この件に関しましてですけれども、企画部長の答弁のとおり、本当にいろいろ指導はいただいているんだと思うんですけども、やはり先ほど関係者、言ったら私たち議員、区長もすべてあるんでしょうけれども、それを見ている人がどういうふうにかえるかなど、最近、僕よく思うんです。議員が課長の横とかいろいろなところで座ってこそこそ話をしている姿が、果たして市民の人から見ていいものなのか。じゃ、議員ができて、私たちがなぜできないんやということは、私、出そうな気がするんですよ。ですので、ここは徹底して

いただけたらええと思うんです。

そして、細心の注意を払って、書類なんか見せないようにという部分なんですけども、それは業務の妨げになるとは思いませんか。そして、私なんか少し声が大きいものなんで、ひょっとしたら周りの方に要らぬ雑音ということをしている可能性もあるかなと思ったりもして、できるだけ小声では話しているんですけども、そういうものも思いますので、ここは徹底するということでお考えはないでしょうか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）庁舎の配置でございますけども、1階の玄関あたりにつきましては、よく一般住民が来られる、来庁されるということで、応接なんかもカウンターの中に置いてございません。ということで、基本的にはカウンターで協議されて、長い協議になりましたら相談室なんかですということになってございます。

ただ、1階の一番裏とか2階につきましては、あまり一般の方というよりも、委員ということで応接を置いている人がかなりございます。ということで、そういうところについて、すべて廃止して協議場所ということもちょっと不可能かなというような考え方もございますので、その辺の、もう少しめり張りをつけてしていく部分と、それから話の場所というものをもうちょっとつくっていかんのかなと、話をする部屋を確保していかなければいけないかなというようには考えてございます。

そういうことで、すべて一律にというのはちょっと難しいかなというような考え方はございますけども、改善していかなければいけない部分はありますので、特に住民が見てちょっと不快やなというようなところもありますし、そういうところについては改善して

いきたいなというように考えてございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）部長のほうも改善していきたいという気持ちはあるようなんですけども、私は、できれば、予算が許せば、場所がないということで、玄関を入ったホールの吹き抜け、あそこはやっぱり天井を張って1階、2階を区切るべきかなと。そしたら一つの大きなホールができますので、そこである程度の会談もできるし、いろんな形で部屋もできるのかなと。これは予算が許せばの話ですけどね。

ですから予算が許さないのであれば、私はその配置を考えて、職員が仕事しているところは入れないように。じゃ、ほんだら応接を前のほうに持って行って、入り口の近くに持って行って、そこで皆さんが話できるようなそういうふうな配置がえをすることによって、中まで入ってこられるとやっぱり気になります。うちらでもそうです。うちらでも、小さい会社ですけども、やはり事務所の中へ人が入ってこられると、私も違和感を感じます。そういうこともありますので、本当にこれから、後でも行政改革の中でありまして、ほんまに職員に頑張っていただかなあかん部分、やっぱりそういう環境をつくる、私、そのことは上の者のある程度の責任だと思うんです。だから、そういうことで職員ともう少し考えて、早急に案を出していただきたいんですけども、できるでしょうか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）企画部の企画のほうからですか、そういうところから強制的にというんじゃなしに、そういう考え方の中で、現在のところも、各課、各部に配置については委ねていたところがございます。そういうことで、一定の考えの中で応接なり配置についても考えられるかということ、これはあま

り金の要ることじゃございませんので、早速1回通達を出して、検討してもらおうな形、考えていきたいと考えてございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）どうぞよろしくお願ひします。私ら議員も、議員には部屋がありますので、できるだけそこへ来ていただいて話ができるように、私のほうも気をつけますので。こういうのはある程度徹底しないことにはね、やっぱり絶対僕はだめやと思うんですよ。ほなさかいにできるだけ徹底していただきたいということを要望と、期待いたしまして、まず第1番目の質問を終わります。

それでは、行政改革の2番につきまして、年度末を迎えて、多くの職員の方が退職されます。本当にやめられる職員につきましては、ご苦労さまという言葉しかございません。そして、これからよくいうセカンドライフ、第二の人生というものを、今までの経験を踏まえて私はやっていただきたいと思ひます。そして、できるならば客観的に遠くのほうからこの橋本市行政というものを見守っていただいて、橋本市長の言われるボランティア精神で行政を助けていただくという立場に立って、私はやっていただきたいなと思ひますけども。先ほどの部長の答弁の中で、引き続き業務に当たる方が何人か、本年度やめる方がまず嘱託・臨時で残られるとおっしゃっていましたが、その方は何人ぐらいいてるんですか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）専門的な職については引き続きの方がかなりおられますけども、いわゆる一般職関係の人について、それから経験のある、専門じゃなしに、もと行政職関係につきましても、まだ現在選考中で確定してございません。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）部長、きょうは3月10日ですかね。ああ、11日ですか。まだ確定していませんとはね。これ例えば市役所、人を雇用するときに、何月に決めますの、募集をかけて。その人の行く場所が決まっていかなんて、これ本当におかしなことなんです。そうでしょう。だから、こういう部門でこの人が必要やから、毎回私言っていますけど、嘱託職員になる方が悪いとは言っていませんよ。それ絶対に誤解せんとしてください。いつでも言うておるように、その人の能力をしっかりと踏まえて、その人が役に立つのであれば、私はどんどん雇っていただいてええと言うておるんです。しかし、今この専門職、何人かわからない。あと20日ぐらいで、どこへ配置するかもわからない。こういうことが、ちょっと僕、理解できないんですけども。本当に決まっていらないんですか、何も。再度お聞きします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）ちょっと勘違いを僕、しているかわかりませんが、臨時・嘱託、何百名といてるんですかね、橋本市の中で。それで、専門職と言いましたのは、保育士さんとか、あと介護認定員とか、そういう方のことを言いましたんですけど、それについてはほとんど決まっていますけど、まだ決裁をとるところまでいっていません。ほとんど再雇用の方がおられます。それで、あと、何人かいてますのかねというのは、新規の方ですか。ちょっとその辺、具体的に言うてくれる。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）よく聞いてくださいよ。年度末を迎え、本年度も多くの職員の方が退職されますが、再雇用として嘱託・臨時職員に採用する方はおられるのですかということをお聞きしておるんですよ。やめられる方。その

方を、これ通告書に書いてあるんですけども、その人のことを聞いているんですよ。退職者対象ですよ。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）退職者の中から臨時・嘱託で残られる方ということですね。人数については、今のところ予定しておりますのは、言えるのは二、三名というところまでです。なぜ言えないかというのは、その位置づけを最終的にまだちょっと内部で調整もできないので、二、三名としか今の時点では申し上げることはできません。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）先ほども言うたように、きょうは、あと20日で新年度なんですよ。その位置づけがないのに、二、三人、この方は結構ですよ。まだそれ以上にあるということでしょう。ないんですか。というのはね、今、予算も決まってきているんですよ。職員の給料も出ている。これから審査には入りますけども、出てきている。その中で、4月から職員を採用するという数はある程度決まっておるはずなんですよ。そしたら、ここで何人か出るか、そういうものは出るんですか。出るなら答弁できるんじゃないですかと言うておるんですよ。何も難しいことは言うていませんよ。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）2名または3名ということで、それしかちょっと今のところは言えません。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）ほたら、再雇用される方が2名から3名ということで、その方にはぜひとも頑張ってください、市の活性化について、本当にこの改革について頑張ってくださいたいんですけども、これは当然、再雇

用のほうは、例えばですよ、2名か3名なんんですけども、ほかのいろんな諸団体に云々、公民館でありのいろんなところ、ありますわね、関係のところ。そういう方に行かれる方はいらっしゃらないんですか。これは俗に言う、庁舎内と違いますから、世間、俗に天下りと呼ぶんですよ。同じ組織内は天下りやないんですけども。天下りというので、違う団体に入るといふかそういうの。そういう関係の、そういう部分は今のところないんですか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）職員から退職して臨時・嘱託になる方が2名から3名ということでございます。それで、その2名から3名でございますけれども、1名につきましては教育委員会部局、それから、あと1名から2名につきましては一般行政職の部局ということと予定してございます。

（「だから、公民館とかそこの天下りはないんか」と呼ぶ者あり）

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）今現在、私が知っている限りでは、先ほど申し上げました2名から3名というだけでございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）それでは、2名から3名ということなんで、その人たちの雇用について、ほかにこれから、現在でするので増えるという可能性もありますけども、その辺に關しましては私はずいとも、なぜこういうことを言うかといったら、今、若い人たちとかいろんな方が職がない、仕事がない中で、やはり本当に能力のある人が責任を持ってやっていただける職につくのは、僕はありがたいんです。いつでも言うておるようにね。人の能力があるときは、そういう二、三名の方で、ぜひとも行かれる方には多くの給料をやって

あげて、10万や15万で雇うんじゃないしに、やはり30万、35万の高額を払っていただいて、その能力分の仕事をしていただいたらいいんですよ。だから、私はそれを希望します。ですから、この再雇用については一つ確認しておきたいんですけど、ほかの全部の再雇用の人なんですけど、これはどちらから再雇用を望んだのか。本人が望んだのか、行政側が望んだか。一つ確認です。どうぞ。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）平林議員の再質問にお答えを申し上げます。これは行政の私からお願いをしたところであります。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）市長のお目にかなう方だと思いますので、これから期待しております。というのは、先ほど長期総合計画もありますけども、いろんな計画を立てる部分に、私は非常に大事なことがあるのは、計画はすばらしいけども、じゃ、本当にそれを実行する職員の皆さんに対しての訓育というものがこれからできるんであろうか。その部分なんです。やめる方が、本当に能力がたけている方がいらっしゃってくれたらいいんですけども、今までの流れで、普通に、何で来ているのかな、本当に安い賃金の嘱託で、前は立派な方が、そんなところでおることによって、やっぱりどういうふうな、職員に訓育という形での引継ぎをやっていないのか。また、その人がおることによって、やはり職員が気をつかうということは僕はあると思うんですよ。僕らかてそうですよ。やっぱり先輩がいたら、先輩が真はたでおったら、自分がやりたいことも相談し、しかし却下されたらあきらめるといふ部分もありますのでね。これから橋本市を支えていく職員に、私はぜひとも頑張っていたきたいので、こういうことを申

し上げているんですよ。やっぱり見えるんですよ、いろいろ。先ほど、天下りじゃないですけど、いろんな関係団体に、橋本の重鎮であった人が、いろんなところで大きなポストでおるんですよ。その人たちに能力があったらいいんですよ、いろんな団体の。能力なしにそのポストへ座っておる人がおるんですよ。そしたらそこが後で、若干出ていますけども、本当に皆さんが頑張る妨げにならないかなど。そこなんです。私は、橋本市の職員は数多くの優秀な方がいらっしゃると思います。しっかりと外から支えて客観的にアドバイスしてあげたら、私は十分対応できる方が多いと思いますのでね。その中へ入るんじゃないしに、皆さんもこれから、外のほうから十分いろんな意見を言っていただきたいなと思います。

続きまして、その部分の中で、本年度再雇用した嘱託職員・臨時職員、行政関係があった方を再雇用するのですが、再雇用すれば1年間の成果を調べ、市長がおっしゃる費用対効果を判断してのことなのかということで、私、去年の3月の一般質問にもこれを取り上げさせていただきました。先ほどの企画部長の答弁の中で、引き続き検討するという事なので、特殊な、おっしゃった保育士さんとかそういう方は、当然能力があって資格があるから、こういう人は別に私は問題じゃないんですよ。ですから、先ほど言うておるように、前回は3月で言うたのは、体育館の館長の件なんですけども、ここに1点絞る部分があるんですけども、やっぱり明確になっています。その中で、今回もその人たちは再雇用していくんですか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）平成20年度も引き続き雇用していく予定でございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）去年の答弁に対しまし

て、企画部長のほうから「館長に就任していただいてまだ1年がたっていない状況でございます。ということで、特に17年、18年度が、そういう管理運営方法の変更がなかった中で、18年度をもってまだ成果がなかったか、上がらなかったという判断はできかねない状況だというふうに解釈してございます」。中、飛んで、「現在は、まだそれについて評価はできないというふうに考えてございます」ということです。それから1年たちました。評価はどうなっておりますか。数字的な評価、また、経済面の評価、いろんなものを踏まえてちょっと説明、お願いできますか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）人事のほうへ届いていますのは、体育館の経営のほうも上向いてございますし、何ら問題はなかったということで報告を受けてございます。数字的なものについてはちょっと把握してございません。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）私のほうから橋本体育館の館長というか、橋本体育館の実績報告、数字をさせていただきたいと思います。

18年度の事業実績に対しまして、19年度のまだひと月を残しておりますけれども、館主催のスポーツ等の教室は、18年度が12教室、そのうち新規教室は4回を立ち上げていただいておりますのに対しまして、19年では、15教室のうち5教室をまたさらに新たな事業として起こしていただいております。

それから、同じく館主催の大会等のイベントですけども、18年度では4大会のうち2大会を新規として立ち上げていただいております。それに比べまして、19年度でも5大会を開催していただいております、18年度が4大会、そのまま継続してさらに1大会、新しい大会を立ち上げていただいているということございまして、収益、使用料の数字を

参考までに申し上げさせていただきますと、議員は前に数字を拾われておられましたですけども、17年度の県立体育館の利用実績では、使用料総額が1,755万8,217円です。それで、18年度は一つ大きなNHKのど自慢大会等がありまして、収益が上がっております。2,039万685円。それから、今年度の19年度、まだ3月は計算を入れておりませんが、2月現在までで1,895万7,575円、約1,900万。この3月歳入見込みを加えますと、18年度実績の2,000万を上回る見込みで、順調な推移で頑張っているんじゃないかと、数字上ではあらわれております。

以上です。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）いろんな形の中で、17年度が1,755万ですか、それで19年度が1,895万ということで、約150万の伸びがあったということで、そういうことで数字があらわれて、これは評価に値すると考えていますよね。ちなみに体育館の館長の給料は550万でしたかね、保険からすべて含めて。それにしても少し足りませんね、私から言うたら。普通の経営者から言うたら、それは足りないということになると思います。この館長の勤務実態というのは、ちなみにどうなっておりますか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）一般職員と同じように、週休2日制で5日間勤務いただいております。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）それでは、今資料がないと思いますので、それに対する勤務実態の報告、また後で結構ですので、いただけますか。

いろいろ調べて、私は今回いろいろなことを、市長がおっしゃる費用対効果を本当に考えていかなければならない。初め1回目の質



間で言うたように、数字での改革というのは進んでいるという部分の中で、市長、本当にこれ、またもっとさらに橋本市というのは、数字をもっと厳しくやっていかなあかん部分は、皆さん、各担当部の方も承知とは思いますが。

今度はここへ手を突っ込んでいく。人件費。これは各企業、どこでもやっておるところです。私はまだまだ甘いと思っています。だから、僕は職員の給料はしっかりやってあげてくださいよと言うておるんです。一生懸命働く人には。毎回言うように。本当にだれがおっても一緒じゃないか、そういう部分の無駄に早急に手を突っ込まなければいけないん違うかな。そういうところを職員の方も見ているということは、私は覚えておいていただきたい。だから、つらいと思いますよ。本当にいろんな流れの中でいろんなことがあって、今まで頑張ってきた人を雇用してあげたい、それはよくわかります。能力もある。しかし、前も言いましたけど、「泣いて馬謖を斬る」じゃないですけども、本当に改革をしていかなければ、そこへ今度は手を突っ込んでいかなければならないんだなど。だから、優秀な方は残していただいて、本当に市長、どんどん考えを変えていかなければ、橋本市は、時代は動いているんです。だから、早よ言うたら「君子日に三転する」という言葉もあります。よく昔の、2,000年前の方が、1日3回物事を変えていく、そういうふうな決断が必要だと言うております。今、この早いスピードの世の中で、本当にいいことだと思うことに関しては、私はどんどん変えていっていただきたい。

今回の一般質問でも多くの方が言うています。しかし、進展がない。その進展がないのは、できるできないの答えもはっきり言わない。そういうところに私は問題があるんだと

思っています。ずるずるずるずる引き延ばす。本当にできるんかな。1年たち、2年たち、それがずっと今までのこの政治不信にもつながっておると思うんですよ。世の中は早いんです。4年というのは、1期4年ですけども、おぎゃあと生まれた子が4歳です。このくらい早いんです。

ですから、その辺も考えて、私は、いいと思うことは、やっぱり橋本市長である市長が頑張っていて、どんどん、トップダウンでも何でも結構です。やっていただいて結構です。市民のためになることであれば、この部分の信念さえ曲げていかなければ、私はどんな方法でも協力したいと思いますので。やはりこういうふうなものが、無駄を切る、この部分にこっちは少し徹底していただきたいということで。市長、この第1番目の行政改革について、ご答弁いただけますか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）大変適切というか厳しいご質問であります。

先ほどから非常に議論、ご意見ございました退職される方についてであります。1人は企業誘致ということ、これは私、命をかけてやっておる、今真ただ中でありまして。できればここで今の予定の業者も全部発表したいところでありまして。それは問題がありますから、控えておきますけども。そういうときに、若い人入ったら、優秀な人材入ったって、これどうにもならんですよ、こんなんは。平たく言うと、そういうこととごみの焼却場の真ただ中なんですよ。これは4月1日に完成するか否かの山場に差しかかっている。私も20回から現場へ行っておるんですよ。この間も朝早く行ってね、8時から朝礼しておるんですよ。そんな中で、そうなかなかやっぱり経験を積んだ方を、何ぼ安い頭でも、私20回

ぐらい頭下げました。どうぞ続いてお願いします。ここは正味言いますけど、そんな状態なんですよ。

さらに、体育館の問題ですけども、いよいよホテルが、来年の夏ぐらいにはオープンしてよということをかけ合っておるんです。そうしたら、体育館へ行って調べますと、1年向こうが、どんどん予約が、あれは1カ月や2カ月ではお話にならない。半年でも無理だというぐらい、1年向こうに予約をこうずっと組んでいくんですね。そうしたらやはり内容の濃い、収益の上がるバラエティに富んだ体育館の各施設を、それをやっていくのには、ホテルと絡んでいろいろと研究調査した結果、やはりなれた、精通した者がまた続いてやっていただくのが妥当やとそういう判断しておりますので。ただ、私としては漠然とやっていないということだけご了解を、ご承知おきをいただきたいと思います。この責任は私にありますので、ちゃんと全うするように指示をいたします。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）市長、頑張ってください。誤解のないように。私は何も、雇うのが悪いとは言っていないので。何遍も言います。能力のある人はもっと高い値で雇った方がいいんですよ。市長のおっしゃるように、自信を持ってやっていただけたらいいんですよ。だから、私たちもやっぱり議員としてチェックはしていかなければなりませんので。それが本当に市民の皆さまにオーケーもらえるかどうかというチェックもせなあかんのでね。その部分と、市長の気持ちはよくわかりますので、どうかよろしくお願いします。

続きまして、地域活性化について。先ほど市長の説明の中でも、今の企業誘致に命をかけている。その成果があらわれている。本当

にこれはすばらしいことだと私は思っております。

そこで、今度は橋本市に多くの方を運んでいただく。地域活性。住んでいる者が本当にいいなと思う、市民全体にそういうものが浸透する。そういう部分を、言うたら夢じゃないけど、希望じゃないですけども、そういうものに今度、早期に取り組んでいただきたい。

だから先日、同僚議員がある物を利用したらいいいじゃないかと、テレビの件も言いましたけども。私はそのとおりにやっております。先ほど部長がおっしゃったように、雇用促進事業とか、観光ガイドとかいろいろやっているという形の中でのそういう取り組みもいいんですけども、私、少し時間がかかるように思います。それでしたら、やはり今あるものを利用する。そういう考えで、新たに、やどりとかそういう時間がかかるのじゃなしに、本当に今橋本市にあるものを、こういうのをPRしていったらどうかかなと思っている。

例えば大きなPRとしまして、私、きょうはちょっと彼のあれを持ってきましたんですけども、ぱっと見たら私によく似ている、若いときにですね。これ溝端淳平君といいます。これ今、東京へ出て行って、タレントです。彼、かなり今、知名度はあって、いろんなところへも、映画のほうでも主演もとっているということで。そうして、これは恋野の子です。もう1人恋野の子で、今度選抜に、横浜高校の3番か4番か、クリーンナップを打つ1年生の筒香君という子が、この大会にも出てきます。やはりそういう部分で橋本市出身の、ほんまに若い子どもが頑張っている。そういう部分も僕はやっぱり皆さんに知っておいていただきたいし、PRしていただきたいんですよ。そら前畑、古川、岡潔、この辺もいいですよ。やはり今の感覚に合うような子も探しながら。市長、今度東京で橋本会をや

るんであれば、1人は学生ですので、この溝端君に関しましてはぜひとも橋本会に呼んでいただいて、PRしていただいたらどうか。各企業も来ます。そうすれば、それに対して、やはりコマースの契約とかそういう話にもなって、そういうことによって地域の皆さんが、「橋本にはこういう子が出ているんや」。そういうのも一つは僕は活性やと思うんです。自慢話ですからね。「おらがまちには」というそういう部分が橋本には少なかったの、そういうことも踏まえて、そういうことを考えて、すぐありますので。私は、高校野球に関しては、市長として祝電ぐらいは打ったってほしいなど。頑張れと。横浜高校の筒香君に。これはあまりかかりませんので、まちを挙げて頑張っているよぐらいのことは、私はやってあげていただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）平林議員から大変適切な、前向きなご質問がございました。それぐらいのこと、私は皆わかっておりまして、この間、筒香のご夫妻が市長室へ来られて、そして東京で、これは横浜の、去年から1年ですね、今度2年。2年で4番と今なっておりますが、今度3番になるやに、二、三日前に情報が入りました。もちろんその祝電もこの間から打つておりますけども、今度は、準優勝、優勝ぐらいになったら私は甲子園へ応援に行きますよと。そんなことが進んでおるわけでございますが、やはり橋本市でそういう立派な、ほんで私、お父さんに約束しました。高校出たらプロへ入りなさいよと。そしてプロのどの球団か私はわかりませんが、恐らく今度は松井よりは上へいくという、東京の100万部のニチニチか何とか、スポーツ新聞、あれにも1面に出ていますな。そ

の新聞、見たかったら市長室に全部置いています。そうして、うれしいのは和歌山県橋本市隅田中、それがうれしいですね。そんなことなんです。私も大分会議には宣伝しまして、この間も、今度立派な柿を研究して、大きな柿をつくるのが今ちょっと進んでおるんです。6個で5,000円ぐらいのね。それを今度は筒香柿ということでね、選手の名前でね、6番の背番号ぐらい欲しいなど。6個入れたら、そういうことの箱の見積もりまでとっておるんですよ。そういうことは先取りせないかん。まだ言いたいことは山ほどありますけども、時間の関係で以上でございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）市長、彼もよろしくお願ひします。本当に、彼、今18なんです。ぜひとも2年後の成人式のゲストに呼んでいただくぐらいね。そうすれば本当にいろんな形でまちの活性が、若い者が盛り上がるんですよ。やっぱり地域活性化は若い子ですんでね。ぜひともそれはよろしくお願ひします。

それで、中身のほうなんですけども、今、地域活性化の中で一つ観光プロデューサーということもいろいろあったんですけども、私、やっぱりもう一つ言わせていただいたら、同僚議員が、またあしたになりますか、質問しますけども、和太との関係を密に持って、和太の観光分院みたいなそういうふうなことを考えていって、やっぱり地域で、本当にこの橋本市の観光を考えていくという部分をひとつ提案したいんですけども、この答弁に関しましてはあした同僚議員がありますので、その辺のところはお任せします。

そうして、私は早急に活性化に取り組んでいただきたいということなんで、橋本市には先ほど言うたこの人物がある。そのときには、本当におじいちゃん、おばあちゃんが今までやってきた、そして市長が頑張っている花い

っぱい運動、これに対してなぜ観光客を呼ぶようなプランはできないかなと思うんですよ。やはりせっかくやっているでしょう。あるものでしょう、市長が頑張っている。だから、そこに人が来てもらうような、今、だから南海30分になったときに、じゃ、本当に橋本市に、駅を降りて、そして花畑を見て、花畑の中で橋本市の業者がつくったおいしいお弁当を食べて、いろんなところを見て帰っていただく橋本市のツアーというのが、僕はあってええと思うんですよ。そういうもんも、市長、考えていただいてしたらいかがと思うんですけども。

時間もないですから、そのときに、市に予算がないということをよく言いますので、どうですかね。橋本市、コミュニティバスありますよね。あれ、たしか土日は運行してないと思うんですよ。土日、そういうふうなツアーの人に充てる。だから2台あったら、1台15人乗れるとしたら毎週土日に30人のあれになりますので。そういうふうなミニツアーでしたら、本当に名所旧跡、そしておいしいもの、きれいなところ、何ぼでもありますよ、この橋本市。多分、商工会議所、考えていけると思うんですけど、その辺の連携をとって早急に対応していくお考えはあるでしょうか。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）今、バスのほうまではちょっと考えてございませんが、先ほど申しあげました大和街道散策という形で、大阪のほうの方の柿の葉寿司体験を含めたコースを考えてございます。そうした市外からのお客さまということで、今後の予定としては、杉尾の不動岩から万葉の郷、恋し野の里、中将姫を訪ねたりとか、あるいは橋本の秋祭りのだんじりのおもしろさを訪ねたりとかいうのを次々と企画して、市外から橋本へ来ていただいて、橋本のよさを理解していただきたい

いというふうで、一番最初の初めての試みですので、これが成功しますと二日目、三日目を打っていきたいというふうに考えてございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）簡単に言います。それは橋本市が考えたことですか。それとも、地元の業者もしくは商工会議所などと連携してつくったものなんですか。簡単にお願ひします。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）これは人材プロデュースの中の一つとして取り組んでまいりました中で、その参加者の1人が立案をしてございます。

○議長（中上良隆君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）私そういう部分で、1人が立案しているということなんで、それは非常にいいことだとは思いますが、先ほど言うたように、やはり一つのことをやるときは多くの人間を巻き込む。多くの人間を巻き込めば、一生懸命PRをしてくれる。頑張っておもてなしもできる。おもてなしで思い出した、去年研修で行きました近くの和倉温泉なんか、寒いところですけどおもてなし日本一です。何にもないんです。おもてなし日本一で客を呼ぶんですよ。だから、私はそういう発想でいいと思うんです。今、市長、私は急いでやっていただきたいという部分、今、部長のほうからおっしゃっていただきましたけども、地域をもっと巻き込んで、商工会議所なんかとやったらもっと、だいたいそのツアーは毎週できるんですかと。土日。毎週土日、10人、20人のツアーでしたら組めます。それで来たら、もしよかったら、大阪が近くなれば、またみんなと個人的に来ましようという話も出ます。だから、本当に地域にある、例えば帰りは最終やっちょんで農作物

を土産に買えるとか、そういうふうな部分の地域の活性化、おばあちゃんがつくるコンニャクが食べたい、おいしいなとか、そういうふうな部分に本当に地域密着をして、そこへへら鮎とか市長がおっしゃる柿狩りもあっても結構です。パイル織物の見学でも再織でも結構ですけども、本当に何遍も来たくくなるような、私はこの自然を生かした形での、市長が言っている花いっぱい運動、そういうことからもっと、国城山登っていただいても結構ですよんか。いろんなツアーが何十回と組めると思うんですよ。そんなもん、単発にやって、じゃ、本当に何百人のツアーが組めたらいいですよ。やっぱり小さいツアーを数打つべきやと思うんです。これに関しましては、私、行政というものはあまり力がないなと思います。地元協力がなかったらあかんと思いますので、その辺のところ、35分までですのであと3分ぐらいですの、あと1分ですか。市長、済みません。あと1分ということなので、まとめて答弁お願いできますか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）大分たくさん言われたのでございますけど、総じて努力をしてまいりたいと思います。

特にそうした身近な、この間も我々農業推進の委員会で、曾爾村の施設を見せてもらいました。都会の住民の皆さんがこの橋本市へ来てということで、それら橋本市で一、二箇所をつくるべきではないかな、そこを拠点にして動いてもらおうとかね。例えばの話でございますけども。

ご意見は十分承らせていただいて、今後の橋本市の活性化のために最大の努力をしてまいりたいと思いますので、ご指導いただきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（中上良隆君）これをもって10番 平

林君の一般質問は終わりました。

この際、3時50分まで休憩いたします。

（午後3時35分 休憩）